

記 査 査 査 査 査

自民県連「合区案」反対へ

参院選 県選出不在 懸念の声

参院の選挙制度協議会（座長＝脇雅史・自民党参院幹事長）で、参院選の山形・宮城西選挙区を合区とすることを含み座長案が示されたことを受け、自民党県連は11日、県連幹部を集めた会議を開き、同案に反対する方針を決めた。週内にも党本部へ要望書を提出する。

会議には、遠藤利明会長や大沼瑞穂参院議員ら県連幹部9人が出席した。冒頭で大沼氏が、「1票の格差」の是正のため、有権者の少ない選挙区と隣接する選挙区を統合する座長案について説明。人口が多い宮城県と統合することから、「本県から参院議員を出せなくなる可能性がある」などと

問題点を指摘した。

その後、出席者は非公開で協議し、「大都市に議員が集中して、地方の声が届かなくなる」などとして、合区に反対する県連の方針

を決定。比例選の定数を削減することで、各都道府県から参院議員を1人以上選出できるようにする対案を盛り込んだ要望書を、党本部へ提出することにした。